3．減損の認識を行った固定資産に関する事項
用途：外国人教員宿舎
種類：土地・建物・構築物
場所：小樽市入船５丁目
帳簿価額：17,700千円
経緯：今後使用しない決定を行ったため
減損額：損益外減損損失累計額として10,513千円を計上
回収可能サービス価額及び算定方法：正味売却価額
固定資産税評価額に基づき評価

4．翌事業年度以降の特定の日以後使用しないと決定した固定資産に関する事項
用途：緑１丁目宿舎26番地
種類：土地・建物・構築物
場所：小樽市緑１丁目26番地
帳簿価額：33,300千円
経緯：翌事業年度以降の売却が予定されているため
使用しなくなる日：平成25年３月（平成24年３月末日における予定日）
使用しなくなる日における帳簿価額：33,300千円
使用しなくなる日の回収可能サービス価額：正味売却価額
減損額の見込額：14,868千円

（キャッシュフロー計算書関係）

1．資金の期末残高の貸借対照表科目別の内訳　（単位：千円）

現金及び預金	526,342
定期預金	△ 30,000
資金期末残高	496,342

2．表示方法の変更
前事業年度において「業務活動によるキャッシュ・フロー」の「その他の業務支出」に含めて表示しておりました業務費にかかる経費の支出は、当事業年度より「原材料、商品又はサービスの購入による支出」に含めて表示しております。

（重要な債務負担行為）
該当ありません。

（金融商品関係）

1．金融商品の状況に関する事項
資金運用については、預金、国債、地方債及び政府保証債等に限定しています。
期末日において有価証券は保有しておらず、また、預金については全て元本及び利息が保証されており保有に伴うリスクはありません。

2．金融商品の時価等に関する事項
期末日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。
（単位：千円）

	貸借対照表計上額（＊）	時価（＊）	差額（＊）
⑴現金及び預金	526,342	526,342	—
⑵未払金	(358,358)	(358,358)	—

（＊）負債に計上されているものについては、（　）で示しています。

㈱　金融商品の時価の算定方法
⑴　現金及び預金
短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。
⑵　未払金
短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

（賃貸等不動産関係）
本学は、緑４丁目に寄宿舎等を保有していますが、これらの賃貸等不動産の貸借対照表計上額、当期増減額及び時価は次のとおりであります。　（単位：千円）

施設名称	貸借対照表計上額			当期末の時価
	前期末残高	当期増減額	当期末残高	
国際交流会館	120,246	△ 5,952	114,294	114,294
学生寮	421,869	△ 13,941	407,928	407,928

（注１）　貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
（注２）　当期増減額のうち、主な増減額は次のとおりであります。
給水管の切替工事による増加（学生寮）　2,410千円
（注３）　当期末の時価は、主として簿価に基づいて当法人で算定した金額（指標等を用いて調整を行ったものを含む。）であります。

また、賃貸等不動産に関する平成24年３月期における収益及び費用等の状況は次のとおりであります。　（単位：千円）

	賃貸収益	賃貸費用	その他（売却損益等）
国際交流会館	2,718	(5,952) 8,863	—
学生寮	13,612	(10,960) 20,281	—

（注１）　賃貸費用の（　）書きは内数で、損益外減価償却相当額を表示しております。

（資産除去債務関係）
石綿障害予防規則等の規定に基づく建物のアスベスト除去、土地の使用貸借契約に伴う原状回復義務及び建物の賃貸借契約に伴う原状回復義務であります。
使用見込期間を取得から16～21年と見積もり、割引率は、1.854%～2.14%を使用して、資産除去債務の金額を計算しております。
当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

期首残高㈱	37,974千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	0千円
時の経過による調整額	763千円
資産除去債務の履行による減少額	△0千円
その他増減額	0千円
期末残高	38,737千円